



黒沢一成議員

児童福祉

# 虐待が増えているか

## 虐待自体・相談件数とも増加

**質問** 児童虐待に関する相談件数が年々増えているようだが、虐待自体が増えているのか。主な原因とその対策、対応体制は。

**沼崎町長** 町内の新規相談件数の動向は、18年度が13件、19年度が16件、20年度が14件でほぼ横ばいとなっているが、前年からの継続を加味すると虐待自体、相談件数ともに増加している。児童虐待は、身体的、精神的、社会的、経済的などの要因が複雑に絡み合っており、起ると考えられ、特に最近、少子化や核家族化、コミュニティの崩壊に経済不況などの世相が加わり、

生きづらさの現れと言われている。このことから、特別な家族の問題という認識で取り組むのではなく、どの家庭にも起こりうるものとして認識し、児童虐待防止の取り組みを進めていく必要がある。

現在、相談には保健福祉課の児童専門員を中心に児童相談所などと連携しながら対応しているが、児童の生命や人権を傷つけずに守り抜く意識を持ち、心身共に健全に成長・発達できるよう支援していく体制を充実させなければならないと考えている。

### 行政改革

## 役場支所の今後は

### 地域を充実させるため廃止しない

**質問** 役場支所は、将来的には廃止の方向で検討し、その前提として、現在支所が行っている業務を郵便局に委託する計画であったと思うが、その後の経過は。

**沼崎町長** 役場支所は、将来的には廃止の方向で検討し、その前提として、現在支所が行っている業務を郵便局に委託する計画であったと思うが、その後の経過は。

の提言を受け、廃止も含めた検討を行った結果、住民協働やコミュニティ活動支援、公民館事業など、地域への新たな活性化策を充実させるために廃止しないこととしたが、行政改革の一環として、支所への職員の効率的な配置のあり方は今後も検討していく。  
**質問** 各地区に住んでいる職員が、近所の高齢者、住民からの問い合わせに対応する体制はできないか。  
**沼崎町長** 職員が、自宅で住民票申請手続きの代行をするなど、役場の出張所的な役割について以前内部で検討したことがある。しかし、昼間は仕事で自宅にいないことなど、総合的に難しいと判断した。

### 議員7人が一般質問



役場住民生活課と連絡を取りながら業務している船越支所の様子